三宅米吉の日本語統一論（「くにぐにのなまりことばにつきて」M一七『かなのしるべ』掲載）

しよせん　いま　くにことば　の　もとい　を　さだめて、むりおし　に　くにぐに　の
なまり　を　あらためさせん　と　する　わ　ほねおりて　その　かい　なき　わざ　なる
べ　ければ、ただ　なを　ますます　くにぐに　の　ゆきき　の　べんり　を　まし　その
ゆきき　を　しげくし、まじらい　を　あつく　させ、しらず　しらず　みづから　あら
ためさする　に　しく　なかる　べし。

上田万年「標準語に就きて」（M二八『帝国文学』掲載）

願はくは予をして新に発達すべき日本の標準語につき、一言せしめたまへ。予は此点に就ては、現今の東京語が他日其名誉を享有すべき資格を供ふる者なりと確信す。たゞし、東京語といへば或る一部の人は、直に東京の「ベランメー」言葉の様に思ふべけれども、決してさにあらず、予の云ふ東京語とは、教育ある東京人の話すことばと云ふ義なり。且つ予は、単に他日其名誉を享有すべき資格を供ふとのみいふ、決して現在名誉を享有すべきものといはず。そは一国の標準語となるには、今少し彫琢を要すべければなり。

大槻文彦の国家主義的日本語統一論（M三〇『広日本文典別記』序論）

一国の国語は、外に対しては、一民族たることを証し、内にしては、同胞一体なる公義感覚を団結せしむるものにて、即ち、国語の統一は、独立たる基礎にして、独立たる標識なり。されば、国語の消長は、国の盛衰に関し、国語の純、駁、正、訛は、名教に関し、元気に関し、国光に関す。豈に、勉めて皇張せざるべけむや。

標準語は東京語に準拠する……岡野久胤の「標準語に就て」（M三五『言語学雑誌』掲載）

言文一致の文は其語其語法を東京語の何れの部分、何れの社会――何れの階級の言語を標準とするやの問題を出すことゝ思ふ。即ち同じ東京語の中でも階級・職業・年齢・男女等によつて言語の相違あることは著しいもので、（中略）之を例を以て示してみれば、

私にも、それを下さい	通用語
あたいにも、それをおくんな	男児
私にも、それを頂戴な	女児
私にも、それ頂戴よ	芸妓社会
僕にも、それ呉れ給へ	書生社会
わしにも、それくんねい	職人社会

の如く各社会言語の差異を枚挙せば其種別幾許あるか知れない位である。勿論、共同（通用）の場合少なくない。斯く差異ある言語の中、言文一致の採るべき標準語は孰なりやと言へば此東京の社会一般に通用する言語即ち中流社会の男子の言語を採るのである。それで尚ほ言文一致は中流社会の言語に修飾を加へて用ひると云ふのである。

文部省・国語調査委員会（明治三五設立）の所期の調査方針（概ね上田の論に基づく）

（一）文字ハ音韻文字（フォノグラム）ヲ採用スルコトトシ仮名羅馬字等ノ得失ヲ調査スルコト

（二）文章ハ言文一致体ヲ採用スルコトトシ是ニ関スル調査ヲ為スコト

（三）国語ノ音韻組織ヲ調査スルコト

（四）方言ヲ調査シテ標準語ヲ選定スルコト

『口語法』による東京語準拠の明示（T五、国語調査委員会の研究結果として刊行）

主トシテ今日東京ニ於テ専ラ教育アル人々ノ間ニ行ハルヽ口語ヲ標準トシテ案定シ、其ノ他ノ地方ニ於ケル口語ノ法則トイヘドモ広ク用ヰラルヽモノハ、或程度マデ之ヲ斟酌シタリ。

『口語法別記』（T6、『口語法』の解説）～大槻文彦執筆部分

東京わ、今わ、皇居もあり、政府もある所で、全国中の者が、追々、東京言葉を真似てつかうようになつて来て居るから、東京言葉を、日本国中の口語の目当とするがあたりまえのことゝ思う。しかしながら、東京言葉と云つても、賤しい者にわ、訛が多いから、それは採られぬ。そこで、東京の教育ある人の言葉を目当と立て、そうして、其外でも、全国中に広く行われて居るものを酌み取つて、規則をきめた。

「よくなる」「長くかゝる」「嬉しく思う」「新しく作る」「よくて」「嬉しくて」などゝ、文語のまゝに、「く」と発音するわ、関東、奥羽、松前、静岡県、山梨県、長野県と越後の一部であつて、尚、佐賀県の唐津、宮崎県の延岡、其外、諸処でも云い、そうして、沖縄県でも「く」と云う。其外、愛知県、岐阜県、富山県、越後の一部から、西は九州まで、すべて「ようなる」「長うかゝる」「嬉しう思う」「新しう作る」「ようて」「嬉しうて」であるが、愛知県、富山県、出雲、高知県に、「く」をまぜて云う所がある。因て初わ両立させるように案を立てたが、決議の末に、「く」とすることゝなつた。

表1　親族名称の変遷

	明治20年 尋常小学読本 文部省編輯局	明治33年 国語読本 坪内雄蔵	明治37年 尋常小学読本 文部省編輯局
父	ととさま	とと様	オトウサン
母	ははさま	母さま	オカアサン
兄	あにさん	兄サマ	ニイサン
姉	姉さん	あねさま	ネエサン
弟	弟	おとうと	弟
妹	いもと	妹	妹
叔父	叔父	をぢさん	をぢさん
叔母	叔母	をばさま	をばさん
祖父		ぢゞ、オヂイサマ	おぢいさん
祖母		ばゞ	おばあさん

（飛田良文「近代語彙の概説」『講座日本語の語彙6　近代の語彙』明治書院）